

茅ヶ崎寒川 第17回 多職種連携研修会

それぞれの役割を理解して、連携の質を高めよう！

－自分の仕事をアピールしよう－

◇言語聴覚士

発表者 古木 志樹子 所属 湘南東部総合病院

湘南東部総合病院リハビリテーション科の ご紹介



リハビリテーションセンター

湘南東部総合病院リハビリテーション科の ご紹介

- ・リハビリテーション専門医
- ・常勤医師2名
- ・非常勤医師1名の計3名体制



田中 博(たなか ひろし)
リハビリテーションセンター長
日本リハビリテーション医学会認定専門医
日本脳卒中学会専門医



栗山 陽子(くりやま ようこ)
日本リハビリテーション医学会認定専門医
身体障害者福祉法第15条指定医
日本内科学会認定内科医

湘南東部総合病院リハビリテーション科の ご紹介

理学療法士40名

作業療法士12名



湘南東部総合病院リハビリテーション科の ご紹介

言語聴覚士10名



当院における言語聴覚士の役割

①脳卒中後の言語訓練、構音訓練、**嚥下訓練**

②神経難病の構音訓練、**嚥下訓練**

③誤嚥性肺炎後の**嚥下訓練**

④口腔外科手術後の構音訓練、**嚥下訓練**

⑤消化器外科手術後の**嚥下訓練**

⑥緩和病棟における終末期**嚥下訓練**

依頼の半数以上が嚥下訓練

事例紹介

- 症例: A様(50代 女性)
- 診断名: 筋萎縮性側索硬化症(ALS)
- 患者背景:
- 20××年6月頃より球麻痺症状出現、
- 次の年1月筋萎縮性側索硬化症診断
- 次の年3月～次々の年9月まで当院外来にてOT、ST実施
- 次々の年2月～訪問看護導入、9月～訪問リハビリに切り替えてPT実施

言語聴覚士として行った事

- ・＜訓練初期＞
- ・嚥下機能評価(RSST、水飲みテスト、嚥下造影検査)



言語聴覚士として行った事

- ・＜訓練初期～中期＞
- ・間接嚥下訓練(ORAL.ex、咳嗽訓練、アイスマッサージ等)
- ・直接嚥下訓練(食形態の検討、摂食方法の指導等)
- ・発声発語器官、構音評価訓練
- ・コミュニケーション代替手段の獲得
- ・(アプリの活用、伝の心の導入)



言語聴覚士として行った事

- <訓練中期～後期>
- 口腔ケア
- 御自宅での食事方法の再検討
- 御本人、御家族様の精神的ケア
- 訪問看護師への指導

(☆訪問美容のご案内)

湘南地区から横浜まで訪問 美容の現場で活躍する美容 院アーツの福祉美容師さん



* 許可を得て掲載しています



専門職としての在宅への想い

- 患者様の在宅を支えるには専門性も重要だが、時には職種を超えて支えていく必要がある。
- 患者様のニーズにどこまで添えるのか、境界線が無いので、どこまでが許されるのか課題である。